



平成21年 3月30日

各 位

会社名 株式会社 セキド
 代表者名 代表取締役社長 関戸 正実
 (コード番号 9878 東証第二部)
 問合せ先 取締役執行役員管理部長 弓削 英昭
 TEL. 042-643-6835

通期業績予想の修正及び特別損益の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年9月12日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。また、併せて特別損益の計上についてお知らせいたします。

記

1. 平成21年2月期通期業績予想の修正(平成20年2月21日～平成21年2月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	23,300	55	45	10	0円71銭
今回修正予想(B)	22,159	73	61	54	3円87銭
増減額(B-A)	△1,141	18	16	44	―――
増減率(%)	△4.9	32.7	35.6	440.0	―――
(ご参考) 前期実績(平成20年2月期)	24,918	313	271	203	14円33銭

(金額の単位:百万円)

2. 修正の理由

当事業年度におけるわが国の経済は、「100年に一度の危機」と言われている世界的な金融危機の影響による景気悪化と円高の影響により企業業績が急激に悪化しております。そのため、生産活動の縮小による雇用制度の変更や年金制度問題等に対する先行き懸念から消費需要は著しく低下しております。

当業界におきましても、個人消費低迷の影響は避けられず、大手ブランド直営店や家電量販店の既存店の売上減少は鮮明となり、さらなる景気の後退も否めず、新規出店の延期や計画の見直しで設備投資を抑制する方向で動いており、市場環境は非常に厳しいものとなっております。

このような経済状況のもと、当社はLPC(ラブ・プラス・クラブ)カードによる顧客データを活用し頻繁にご利用いただいているお客様や前回のご利用から一定期間足の遠のいていらっしゃるお客様へのセールス・プロモーションを実施するとともに、高付加価値商品の重点販売キャンペーンやお得意様を対象としたイベントなど、提案型の営業施策による需要の掘り起こしと収益率向上に努めました。また、年末年始の最需要期には、急激な円高が追い風となり、お客様への円高差益還元を行いながらも、売上総利益率の向上が図れました。

これらの結果、売上高は、経済環境の悪化の影響を受け、予想を下回るものの、売上総利益率の向上と販売管理費の抑制が功を奏し、営業利益、経常利益とも予想を上回る見込みであります。

また、特別損益については、過年度に引当を実施した貸倒引当金の戻入益を131百万円計上する一方、第4四半期に減損損失を101百万円計上することなどにより、当期純利益は44百万円予想を上回る見込みであります。

3. 特別損益の計上について

(1) 貸倒引当金戻入益の計上

過年度に回収不能の可能性があると見て貸倒引当金を計上しておりました差入保証金等のうち131百万円については、第4四半期に新貸貸人より預託の確認を受けたことから貸倒引当金の戻入を行いました。

(2) 減損損失の計上

「固定資産の減損に係る会計基準」に則り、当中間期に11百万円の減損損失を計上しておりましたが、当期末において101百万円を追加計上いたしました。

※本資料の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって本資料の予想数値と異なる可能性があります。

以 上